

にじ

高知医療センター 「救急・災害対応に向けた 訓練・トレーニング」のすべて …… P2~P7

7

- 高知医療センター・臨床試験管理センターよりお知らせ …………… P7
- 高知医療センター・イベント情報 …………… P8

JULY.2013 Vol.93



ドクターヘリ、出動！今月号は日々の備え、鍛練をP2~P7で特集しまし

た。高知医療センターの理念 医療の主人公は患者さん

「救急・災害対応に向けた 訓練・トレーニング」のすべて

文責：救命救急科 医師 齋坂 雄一

高知医療センターは基幹災害拠点病院の役割を担っており、災害に関する研修を行う機関として位置しています。高知県の災害研修を委託される機会もありますが、病院としてもさまざまな研修を行っており、その一部をご紹介します。

- また道路一本隔てた隣の高知県立大学とは 2011年 6月 28日に包括的連携協定を締結しており、「知的・人的資源の交流連携により相互機関と地域社会の発展に寄与する」ことを目的に、災害対策についても合同訓練を実施したりと連携事業を展開しています。

DMATが関連する院外での災害訓練



(高知市総合防災訓練、高知県総合防災訓練、高知空港訓練、中四国緊急消防援助隊訓練、四国 DMAT 連絡協議会実働訓練など)

災害は対応が急務なことは自明ですが、それを実際に経験することは非常にまれなことで、それまでは訓練が重要な活動になっています。DMAT 隊員にとってもそれは同様のことで、訓練の積み重ねが経験になってきます。高知県は消防や海上保安部、自衛隊などとの連携訓練がさかんであり、毎月なんらかの訓練があるといっても過言ではありませんが、DMAT 隊員で交互に参加するようにしています。訓練に終わりはありません。

高知DMAT研修

(高知県からの委託事業) 他院からの募集受入れ有り(年1回)



DMATとは Disaster Medical Assistance Team の略で、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」のことです。これは災害時において、初期医療体制の遅れによる災害死を少しでも減らすべく養成された災害医療派遣チームです。派遣要請のもとにいち早く被災地に到着し、情報収集と発信を含めた医療統制を行ったうえで、現場救護所での運営や治療、搬送を担います。この研修で行われる高知 DMAT 養成研修は、高知県内で災害活動を行う隊員を養成することを目的としており、県外への広域医療搬送も担当する日本 DMAT 研修へのファーストステップとしても位置づけられています。



内容としては、災害医療対応の原則 CSCA から、局地災害における出勤から準備、現場活動での指揮本部との指揮命令系統や情報通信の方法、トリアージ訓練などを、消防と連携した活動として学べるようになっています。二日間コースの最後には確認試験があり、短期間で多くのことを学べる構成になっています。今年度までの研修終了チームは合計で 28 チームになり、屋根瓦方式で前年度の受講生もインストラクターとして教える側に回っていただくことで技能維持も兼ねています。

エマルゴ研修

(高知県からの委託事業) 他機関からの募集受入れ有り(年1回)



エマルゴ・トレーニング・システムという災害の図上演習で、市立堺病院の中田康城先生を講師として当院の 2 階外来廊下スペースを広く使っています。受講希望者は年々増加しており今年には病院・消防機関・行政など 80 名以上の希望をいただきました。バスの横転事故による多数傷病者発生という設定であっても、大規模な災害現場や実際のバスや傷病者を用意する必要もなく、災害における時間経過を設定して、マグネットの人形をトリアージや処置を施して動かすことで、病院までの情報の流れや救急システムや指揮命令系統を実際に即して見直すことが出来ます。近隣の局地災害で主に活躍する高知 DMAT 隊員にとっても、消防との協働として必要な訓練のひとつになっています。

院内 ICLS

(院内職員を対象／年1〜2回)



正式名称を Immediate Cardiac Life Support コースといい、医療従事者（医師だけでなく看護師や薬剤師、技師等を含む）のための蘇生トレーニングコースです。

特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。胸骨圧迫や換気、除細動などの手技に加え、薬剤の使用も含めた蘇生の流れについて学びます。少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。日本救急医学会のコース認定がある場合には、学会より修了証が発行され、認定医試験等の出願要件としても使用されています。

院内災害講習会

(当院独自の講習会／院内募集のみ／年3回)



院内職員を対象とした講習会で、災害時の考え方やトリアージに関する基本的観察手技を実習を通して半日で学びます。幹部職員はもちろん、新人看護師や研修医も含めて毎回約15-20名の受講生に当院のDMAT隊員が教えています。受講生同士で多数傷病者トリアージを行い、演技を行うことで、傷病者の気持ちまで考えられるようになります。最後には当院の知られざる災害対応施設見学ツアーを行い、地下の免震構造や自家発電装置などを実際に見ることが出来て好評を得ています。また包括的連携協定で高知県立大学へも同様の内容で出張講義もしています。

院内災害訓練

(当院職員と高知県立大学)
当院の災害訓練(年1回)



当院の災害マニュアルに沿った内容を検証しながら、病院の災害対応能力を実際にも高めることを目的として年1回、半日で行っています。病院全体の職員のなかから約200名、高知県立大学の学生さんも傷病者役などで150名以上の参加をしていただき、病院一階の外来廊下や処置室を重症者の主な収容場所として簡易ベッドを作成し、災害資機材を準備して対応しています。軽症者については包括的連携協定のもとに高知県立大学に収容していただくことで役割分担ができ、当院の本来の目的である中等症以上の傷病者

への医療が果たせるようになっていきます。本部機能についても、初期の立ち上げがとても重要なことが職員間で認識できており、スムーズな運営ができるように訓練を重ねています。

「防災の日」総合防災訓練



高知県は南海トラフの巨大地震の可能性が言われていますが、防災の日であった平成24年9月1日には、中央防災会議の東南海・南海地震応急対策活動要領に基づく広域医療搬送に関する実働訓練が四国を舞台に行われ、高知県との連動のもと、本院でもこれまでにない規模の訓練を行いました。

この日午前には、毎年行っている院内災害訓練を行い、連動する形で重症者と県外への搬送が必要な患者さんを高知県および高知大学病院の広域医療搬送拠点SCUとDMAT連携のもとに情報連絡を行い、ヘリコプターやバスを用いて県内搬送・県外搬送する訓練をしました。院内に設置した災害対策本部では他県DMAT受入も行き、病院全体での訓練として280人の参加となりました。

そして、午後には陸上自衛隊第14旅団の協力を得て協同作戦の一つとしてテント設営していただき、自衛隊隊員とともにトリアージ訓練を行いました。

今年度も包括連携協定を含めた院内災害訓練を行います。町内会の方も参加いただけるようで、地域の訓練として根付いていけるようにしていくことで災害時にも役立つネットワークが出来るものと期待しています。

M
C
L
S

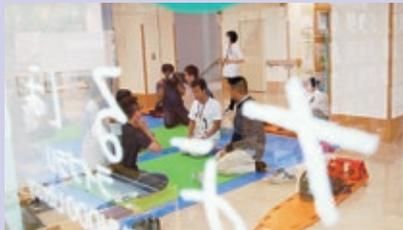
(高知県からの委託事業) 他機関
からの募集受入れ有り(年1回)

Mass Casualty Life Support の略で、多数傷病者への対応標準化トレーニングコースです。DMATや病院と消防・警察などが災害現場において連携するための研修となっています。主に、最先着隊としての災害活動が求められた場合になにをすべきかを、実習と図上訓練で一日を通して学びます。平成 24 年度に高知県では初となる開催があり、受講生は 16 名でした。JPTEC の災害対応版といえます。



高知外傷セミナー in 高知医療センター

(他機関からの募集受入れ有り) 年1回



JPTEC プロバイダーコースとしてのこの外傷コースは全国各地で行われ、病院前救護を相互に学ぶことで救急隊員との連携をはかるものですが、日本における外傷救護の標準的な考え方を成すものとなりつつあります。救急隊の隊長役を演じて現場活動を行い、観察・処置や搬送に関するロードアンドゴーの概念を学ぶものです。高知県の病院コースはこれまでも高知赤十字病院と近森病院でさかんに行われてきましたが、平成 25 年度は当院でも初めて開催することが出来、受講生・インストラクターは四国を越えた各消防・病院の協力で集まってきていただき、1.5 日間コースで 17 名の受講修了者をもつことができました。コースを通じた懇親の場ともなっており、このような関係はいざというときにも役立つものと期待しています。

急変をまず発見するのは、看護師でありその対応をきちんとできるようにしていこうと、2005年の開院以来、毎月1回のBLS研修を開始しました。開院以来の受講生は、延べ728名となりました。はじめは、看護師のみ対象としていましたが、院内全職種へと広げて研修を行っています。最近では、他施設の看護師さんや学生さんにも研修を受講していただいています。



院内BLS
(二次救命処置)研修

院内看護師を対象としたコースで、看護師の第六感とされる経験知を一定のシステムを介して、患者が急変する前に患者の状態変化をキャッチし迅速に対応する方法―「気付き」(早期発見)能力からチームダイナミクス(コミュニケーションを含む)―までをケースシナリオとシミュレーター人形を用いたシミュレーション研修で身につけるトレーニングコースです。院内急変で心停止となった事案のうち約8割は、心停止にいたる8時間前に何らかの予兆が現れていると言われています。その心停止の予兆に気付き、適切な対応によって心肺停止を食い止めることができるかもしれません。看護師の急変対応能力を高め、医療行為に伴う有害事象や偶発的な急変による入院患者の死亡を回避することを目的としたコースです。



患者急変対応コース
for Nurses KIDUKI
(院内募集のみ)年3回

高知医療センター・臨床試験管理センターよりお知らせ

带状疱疹後神経痛の治験にご協力ください。



製薬会社からの依頼を受けて、带状疱疹後神経痛の患者さんを対象とした、治験を実施しております。
もし対象となる患者さんがおられましたら、是非ご紹介ください。
同意取得後の医療費の一部は、製薬会社が負担します。
また、同意取得後の治験のための来院の際には、交通費相当の一定額が病院から支払われます。

【主な適格基準】

- 20歳以上の方
- 带状疱疹発症後90日以上経過している方
- 同じ痛み止めのお薬を14日間以上、毎日欠かさず飲んでいる方

【主な除外基準】

- 他に重い病気を合併している方
 - 現在オピオイド剤を服薬している方
 - 新規に神経ブロックの予定のある方
 - 妊婦又は妊娠の可能性、授乳中の方
- ※この他にも基準がございます。診療や検査結果によりご参加頂けない場合もございます。

【募集期間】2013年8月8日まで

【問い合わせ先】高知医療センター・臨床試験管理センター

Email: rinsyo@khsc.or.jp

日	曜	高知医療センター イベント情報 7月～			
5	金	第3回循環器病セミナー (参加費無料、事前申込不要)			
		内容	僧帽弁逆流：形態診断から形成術適応まで	講師	大阪市立総合医療センター循環器内科医長 阿部幸雄氏
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	18:00～20:00
お問い合わせ：高知医療センター・循環器内科(松三) TEL:088(837)3000					
6	土	第26回高知医療センター 地域がん診療連携拠点病院公開講座 (参加費無料、事前申込不要)			
		内容	胃がんと内視鏡治療 膀胱がんの診断と治療-痛みのない尿が出たら泌尿器科へ- 乳がんについて-あなたを守る検診のすすめ-	講師	消化器内科 医長 大西知子氏 泌尿器科 主任医長 新良治氏 乳腺・甲状腺外科 科長 高島大典氏
		場所	ゆすはら・夢・未来館	時間	14:00～16:30(開場 13:30)
お問い合わせ：高知医療センター 経営企画課 TEL:088(837)3000					
6	土	第16回高知内視鏡外科フォーラム (参加費1,000円※研修医・コメディカルの先生は無料、事前申込不要)			
		内容	一般講演(14:15～) 数演題を予定しております。 特別講演(16:00～) 「Reduced Port Surgery に対する試み-食道から下部直腸まで-」	講師	KKR札幌医療センター斗南病院 鏡視下手術センターセンター長 北城秀司氏
		場所	三翠園 6F 筆山	時間	14:00～17:00
お問い合わせ：ファイザー(株)担当(西村) TEL:087(835)3391					
10	水	第14回高知医療センター 内科系症例報告会(日本医師会生涯教育講座認定講習会) (参加費無料、事前申込不要)			
		内容	内科症例の診療報告	時間	19:00～20:30
		場所	高知医療センター 2F くろしおホール	対象	医療関係者
お問い合わせ：高知医療センター 総合診療科(深田) TEL:088(837)3000					
13	土	よさこいがんフォーラム			
		内容	第1部「専門医に学ぶ 治療選択のコツ」 第2部「最新がん化学療法を学ぶ -分子標的治療薬を使いこなす-」	総括	がんセンター長 森田荘二郎氏
		場所	高知新聞放送会館 東館 7F「高新文化ホール」	時間	13:30～18:30
お問い合わせ：(社)中外 Oncology 学術振興会議 TEL:03(5825)2012(9:00～17:00 土・日・祝日を除く)					
13	土	市民公開講座 in 高知 よさこいがんフォーラム (参加費無料)			
		内容	「専門医に聞く がん治療最前線」 第1部 講演 第2部 質疑応答	講師	乳癌：浜松オンコロジーセンター長 渡辺亨氏 肺癌：近畿大学腫瘍内科 教授 中川和彦氏 大腸癌：国立がん研究センター中央病院 副院長 島田安博氏
		場所	高知新聞放送会館 西館 6F「高新RKCホール」	時間	13:00～16:00
お問い合わせ：(社)中外 Oncology 学術振興会議 TEL:03(5825)2012(9:00～17:00 土・日・祝日を除く)					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

救命救急センターの看護科長になって3年目を迎えます。日々様々な出来事にいつもはらはらドキドキしたりしながらも患者さんやご家族からの「ありがとうございました」という言葉に喜びを感じやる気につながっています。救急部門はいつどのような患者さんが搬送されてくるかわからない職場でストレスも多いですが、日々研修を行い準備を整えています。すなわち開院以来、院内での一次救命処置(BLS)の研修を継続してきました。また今回ご紹介した様々な災害に関する研修や救急に関する研修なども高知医療センタースタッフ一同ならびに高知県下の医療従事者と共に継続して開催しています。今後共、高知県下の災害や救急対応に対する知識や技術のスキルアップ、ネットワーク作りのために共にがんばっていきたく思っております。(救命救急センター 看護科長 小笠原恵子)



平成25年7月1日発行
にじ 7月号(第93号)
責任者：武田 明雄
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：株式会社高陽堂印刷
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>